

企業名：朝日放送グループホールディングス

レポート名：コーポレートレポート

### **1. この会社が目指す姿が理解できるか**

朝日放送グループホールディングス（以下、朝日放送グループ）のコーポレートレポート内では、同社が目指す姿が具体的に示されている。また、目指す姿を実現するためにどのようなことを行っていくかをコーポレートレポート内で具体的に述べられている。以上のことから朝日放送グループが目指す姿を理解できた。

### **2. この会社の競争優位性が理解できるか**

コーポレートレポートからは創立70年のブランドや信頼性、信頼できる情報と安心して視聴できるコンテンツを届けられること、放送事業と住宅展示場や通信販売など様々なグループ会社が連携することで多様なコンテンツを提供できることを朝日放送グループが自社の強みと捉えていると考えられる。また、デジタル分野との連携、高い公共性を有する企業として地域創生・社会課題解決に資する事業を強化することで競争優位性を向上させようとしていることが分かる。これらは、YouTube や Netflix など同社のライバルである動画サイトやネット配信サービスにはない特徴であり、競争優位性としても理解できる。一方で、他の放送局との競争優位性は理解できない点が多い。地域創生・社会課題解決に資する事業は同社の存在意義を高める上でも一定の役割を果たすものと思われるが、その他の点での競争優位性は理解できない。他の放送局も信頼性やブランドを確立しており、信頼できる情報と安心して視聴できるコンテンツの提供に努めている。また、他の多くの放送局も放送事業以外に住宅展示場など朝日放送グループと同様の事業を展開しており、デジタル分野との連携も強化している。したがって、同業他社との競争優位性に関しては理解できない点が多い。

### **3. その競争優位性に持続性があるかどうか理解できるか**

朝日放送グループが挙げている自社の強みのうち、放送局としてのブランドや信頼性、信頼できる情報と安心して視聴できるコンテンツを届ける能力は簡単に失われるものではない。また、この2点でフェイクニュースや過激な動画が多数存在する動画サイトに劣ることは当面は起こり得ないと考えられることから、競争優位性に持続性があると理解できる。しかし、その他の同社が掲げる強みに関しては他社との優位性をあまり感じられない。そもそも、競争優位性を感じられないため、その持続性も理解できない。

### **4. この会社で自身の人的資本の価値向上を達成できると思うか**

コーポレートレポートからは、朝日放送グループがワークライフバランスを実現できる制度の導入に積極的に取り組んでいること、スキルアップにつながるような研修を多数用意していることが分かる。以上のことから、朝日放送グループで人的資本の価値向上を達成できると思われる。

#### 5. 報告書にはどのような改善余地があるか

競争優位性に関する記載に改善余地があると感じた。事業戦略や重点目標に関して詳細な言及があったが、朝日放送グループの優位性を感じるに至らないものが多かった。また、ライバル社、とくに同業他社との差異をより明確に強調するべきだ。信頼できる情報と安心して視聴できるコンテンツの提供が可能という記載があったことでYouTubeなどの動画投稿サイトに対しての同社の強みは理解できた。しかし、Netflix など高評価を受けているネット配信サービスに対する強みへの言及が不明確だ。「ネット配信サービスは制作できないが、朝日放送グループは製作できるコンテンツは何か」といったことを明確にするべきだ。また、同業他社との差異についてもあまり理解できなかった。こうしたことから、競争優位性に関する記載は改善されるべきだと考える。